

- システム監査

1. システム監査

情報システムのリスクに対するコントロールが適切に整備運用されていることを検証するための手段。組織体の情報システムに関わるリスク対策が適切に整備・運用されているかを、独立的な立場で検証すること。計画に基づき、予備調査、本調査及び評価・結論の手順により実施しなければならない。

2. システム監査人

組織体の情報システムを独立した専門的な立場で検証又は評価する者。監査計画の立案、予備調査、本調査、監査報告書の作成と提出、監査報告に基づく改善指導等を行う。監査対象者と利害関係を有することは許されない独立性と専門性が必要。

3. 内部監査

監査対象部門以外の自組織に属する者が、監査対象部門での業務がルールどおり実施されているかを確認する作業。監査報告に基づく改善実施状況を把握して、その改善結果を評価する。

4. システム監査報告書

システム監査人が作成した、監査証拠に裏付けられた合理的な根拠に基づく報告書。遅滞なく監査の依頼者に提出しなければならない。

5. 監査証拠

監査手続を実施して収集または監査人の判断に基づいて評価された検証可能な資料。

6. 監査証跡

監査人の監査意見を立証するために必要な事実。監査対象システムの入力から出力に至る過程を追跡できる一連の仕組みと記録。

- 内部統制

7. コーポレートガバナンス

企業の目的に適合した経営が行われるように企業統治。経営者又は取締役会による企業の経営を、株主などの利害関係者が監督・監視する仕組み。

8. IT ガバナンス(IT Governance)

企業が、IT の企画、導入、運営及び活用を行うに当たり、関係者を含む全ての活動を適正に統制し、目指すべき姿に導く仕組みを組織に組み込む能力。

9. 内部統制(Internal Control)

業務の有効性及び効率性、財務報告の信頼性、不正を防止しリスクを低減する法令遵守、資産の保全を達成するために、企業内のすべての者によって遂行されるプロセス。(1)統制環境、(2)リスクの評価と対応、(3)統制活動、(4)情報と伝達、(5)モニタリング(監視活動)、(6)ITへの対応の6つの基本的要素から構成される。

10. 統制環境

組織の気風を決定し、統制に対する組織内のすべての者の意識に影響を与えるとともに、他の基本的要素の基礎をなし、リスクの評価と対応、統制活動、情報と伝達、モニタリング、ITへの対応に影響を及ぼす基盤。

11. モニタリング

内部統制が有効に機能していることを継続的に評価するプロセス。

12. IT 環境

組織が活動する上で必然的に関わる内外のITの利用状況。社会及び市場におけるITの浸透度、組織が行う取引等におけるITの利用状況、及び組織が選択的に依拠している一連の情報システムの状況等のことを指す。

13. IT 統制(IT Control)

内部統制システムのうち、IT を利用した部分。経営目標の達成に向けてIT をマネジメントしていく組織内の仕組みのこと。IT に係る全般統制や業務処理統制などに分類される。

14. 全般統制

全社で共通に用いるシステム開発規程など、それぞれの業務処理統制が有効に機能する環境を保証する統制活動。

15. 業務処理統制

業務を管理するシステムにおいて承認された業務が全て正確に処理、記録されることを確保するための統制活動。

16. 職務分掌^{しよくむぶんしょう}

内部統制の観点から、担当者間で相互けん制を働かせることで、業務における不正や誤りが発生するリスクを減らすために、担当者の役割を決めること。

● 期待値を求める計算問題

[例題]

翌年度である X 年 4 月から開始されるプロジェクトのリスク対応計画を検討している。表に示される四つのリスクが想定されている場合に、対応への優先順位が最も高いと考えられるものはどれか。ここで、優先順位についてはリスクの発生確率と影響度を考慮し、また同じ優先度であるならば対応期限が迫っているリスクをできるだけ早急に対応するという評価を行うこととする。

リスク	想定される リスク顕在化の時期	リスクの発生確率	リスクが顕在化した 場合の損失額
リスク 1	X+1 年 4 月 1 日	0.6	6,000 万円
リスク 2	X 年 7 月 1 日	0.4	9,000 万円
リスク 3	X 年 7 月 1 日	0.1	1,000 万円
リスク 4	X+1 年 3 月 1 日	0.5	7,000 万円

- ア リスク 1
- イ リスク 2
- ウ リスク 3
- エ リスク 4

[例題の解き方]

リスク 1～4 がそれぞれ顕在化(隠れていたものが明らかになること)した場合について、「リスクの発生確率」と「リスクが顕在化した場合の損失」を掛け算して、損失額の期待値を計算する。期待値とは、不確定な要素を含む計算をする時に想定される値の平均値のことである。

- ✓ リスク 1 損失 6,000 万円 × 発生確率 0.6 = 期待値 3,600 万円
- ✓ リスク 2 損失 9,000 万円 × 発生確率 0.4 = 期待値 3,600 万円
- ✓ リスク 3 損失 1,000 万円 × 発生確率 0.1 = 期待値 100 万円
- ✓ リスク 4 損失 7,000 万円 × 発生確率 0.5 = 期待値 3,500 万円

上記の計算から、リスク 1 とリスク 2 が同額の期待値であることがわかる。

次に、問題文に「同じ優先度であるならば対応期限が迫っているリスクをできるだけ早急に対応するという評価を行う」とあるので、リスク 1 とリスク 2 の「想定されるリスク顕在化の時期」を比較する。

- ✓ リスク 1 X+1 年 4 月 1 日
- ✓ リスク 2 X 年 7 月 1 日

上記を比較すると、リスク 2 が顕在化する「X 年 7 月 1 日」の方が、リスク 1 が顕在化する「X+1 年 4 月 1 日」よりも早いことがわかる。「同じ優先度であるならば対応期限が迫っているリスクをできるだけ早急に対応するという評価を行う」ので、対応への優先順位が最も高いと考えられるものはリスク 2 であるといえる。

答:イ

下記の練習問題で理解を深めましょう！



- ✓ 翔泳社「情報処理教科書 i パスクイズ 222 IT パスポート試験攻略の書」
- ✓ IT パスポート試験合格講座 <http://rakupass.com/itpassport/>



Copyright © RakuPass.Com - Kanya Ishikawa All Rights Reserved.